公開用

環境経営レポート

活動期間　2022 年 4 月～2023 年 3 月

作成日　2023 年 6 月 1 日

®環境省
エコアクション21
認証番号 0012052

株式会社亀田清掃

公開用

目　　次

1. 組織の概要 ……1
対象範囲 ……1
組織図 ……2
環境経営実行組織の役割、責任及び権限 ……2
2. 環境経営方針 ……4
3. 事業の概要 ……5
許可内容 ……5
処理能力 ……6
処理工程図 ……8
処理実績 ……10
4. 環境経営目標 ……12
5. 環境経営目標／実施計画一覧表、取組の評価 ……13
6. 取組の結果及び次年度取組 ……14
7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 ……14
8. マネジメントレビューの結果 ……15

公開用

１．　組織の概要

事業所名　　株式会社亀田清掃
代表者　　代表取締役　池田　善徳
所在地　　函館市赤川町９０番地の４
設立年月日　　昭和４６年９月３日
資本金　　１，００８万円
従業員数　　１０５名
売上高　　１０６，４５１万円（うち対象範囲売上高８０，５３６万円）
（２０２３年３月期）

建物敷地	本社	建物	４９５㎡	敷地	８，４１８㎡
	函館汚泥脱水処理センター	建物	７５９㎡	敷地	４６，３８５㎡
	亀田清掃リサイクルセンター	建物	６６３㎡	敷地	９，７８０㎡

【 対象範囲 】

事業所	住　　所	従業員数
本社	函館市赤川町９０番地の４	４４名
函館汚泥脱水処理センター	函館市東山町１２１番地の５	２名
亀田清掃リサイクルセンター	函館市東山町１２１番地２０	１４名

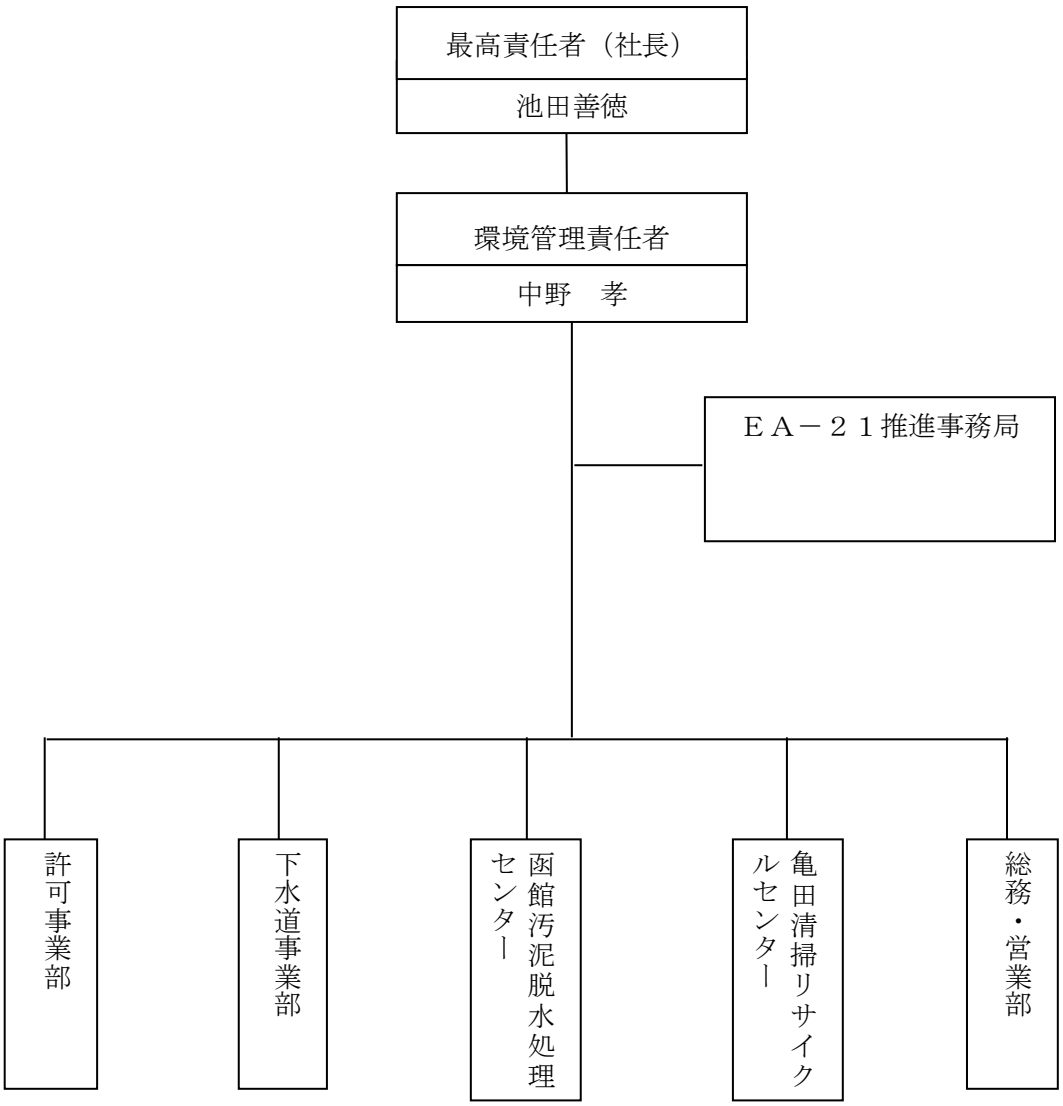
【 対象活動の内容】

詳細内容
一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業 産業廃棄物中間処理業 浄化槽清掃並びに維持管理業務 下水道管洗浄作業 管渠止水更生工事業務

環境管理責任者　　中野　孝（取締役施設管理部長）
担当者　　古館　ひで子
連絡先　　Tel　(0138)４６－３２６３　　Fax　(0138)４７－５６８９

公開用

組織図



※　各部署に環境推進委員(部署長)を置く

環境経営実行組織の役割、責任及び権限

（1）社長（代表者）の役割

① 環境経営方針を決定する。

② 環境管理責任者を任命し、他の責任にかかわりなく環境マネジメントシステムの確立、実施と維持並びに見直し、改善の基礎として環境マネジメントシステムの実績報告にかかわる役割、責任及び権限を与える。

③ 環境マネジメントシステムの管理実行にあたり、必要な経営資源(人的資源、専門的な技能、インフラストラクチャー、技術並びに資金)を確保する。

④ 少なくとも１年に１回定期的に環境マネジメントシステムのレビューを行う。

（2）環境管理責任者の役割

ＥＡ－２１の要求事項に適合したシステムを構築し、実施し、かつ維持されることを確実にすること

公開用

① 環境マネジメントマニュアル及び関連文書等の作成及び見直しをする。
② マネジメントレビューのための情報として、その構築・実施に関する情報を社長に提供する
③ 利害関係者からの苦情、要望等の処理と連絡
④ 法的及びその他の要求事項の集約及び登録を行い、承認する。
⑤ 当社全体の環境経営目標の素案(変更等の素案を含む)・及び実施計画を集約し、社長の承認を得る。
⑥ 部署別の環境経営目標、実施計画(部署環境管理改善計画書／報告書)を承認する。
⑦ コミュニケーションによる情報を集約保存し、必要に応じて各部署責任者及び社長と協議する
⑧ 環境関連事故及び緊急事態発生の報告を受けたときは対応の総指揮をとり、その概要を社長に報告する。
⑨ 監視測定結果の集計表を作成し、社長に報告する。
⑩ 環境経営目標並びに法規制及びその他の要求事項との不適合の是正処置の概要について、社長に報告する。
⑪ 不適合是正処置の結果、必要に応じて環境マネジメントシステムの見直しを実施し、社長に提案する。
⑫ 環境経営レポートの作成と公表

(3) 各部署の責任者(環境推進委員)の役割等は以下のとおりとする。
部署責任者は、適任者を環境管理責任者が推薦し、社長が任命する。
① 自己の管理範囲内における実施責任者として、全員参加による環境経営システムの実施及び管理に責務を負い、部門内の必要な人材育成、パフオーマンスの向上を図る
② 全体の環境経営目標を達成するために部署の「部署環境管理改善計画書／報告書」を作成し、環境管理責任者の承認を得る。
③ 「部署環境管理改善計画書／報告書」にて実施結果の内容、評価を確認し、環境管理責任者に3か月ごとに記録を提出する。
④ 社外のコミュニケーションの受理及び回答処理を行い、コミュニケーション情報記録を環境管理責任者に提出する。
⑤ 自部署に係わる委託業務について、必要に応じて関連委託業者に運用手順を伝達する。
⑥ 環境関連事故及び緊急事態発生時には、対応責任者として処置を行い「緊急事態発生報告書」を環境管理責任者に提出する。
⑦ 部署において実施可能な場合は緊急事態対応計画の定期訓練を行い、実績を記録し、環境管理責任者に記録書を提出する。
⑧ 監視・測定手順書を作成する。
⑨ 監視及び測定の結果を記録し、定期的に環境管理責任者に記録書を提出する。
⑩ 不適合が生じた又は予測された場合には、原因を調査特定し是正及び予防処置を行い記録し、所属の長等の承認を受け環境管理責任者に提出する。

(5) ＥＡ－２１推進事務局
ＥＡ－２１推進事務局を置く。その役割は、以下のとおりとする。
① 環境管理責任者に関わる事務及び業務補佐を行う。
② その他環境マネジメントシステムの管理運営に関わる事務を行う。
③ 法的及びその他の要求事項の遵守評価を行う。
④ 常に環境関連法令の制改廃の把握に努め、「環境関連法規制及びその他の要求事項登録表兼順守状況確認書」の登録、変更が必要なときは、最新情報を環境管理責任者へ「環境関連法規制及びその他の要求事項登録表兼順守状況確認書」を提出する。
⑤ 環境教育計画を作成し実施する。

公開用

2. 環境経営方針

環境経営方針

基 本 理 念

株式会社亀田清掃は、都市生活の空間の中で人々に限りない潤いをもたらせる 「美しい水や緑とのふれあい」 をいつまでも守っていくための支えになることを念頭に、廃棄物処理に携わる企業として地域社会はもちろん地球全体の環境負荷低減が事業活動の使命と自覚し 「環境保全と持続可能な社会の実現に貢献する」 ことを基本理念とします。

環境経営方針

株式会社亀田清掃は、一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業務並びに産業廃棄物中間処理業務が主体であることを踏まえて、以下の原則を履行し環境管理活動を行います。

1. 本社事務所及び亀田清掃リサイクルセンター・函館汚泥脱水処理センターの事業活動が環境に与える影響を考慮し、環境汚染の予防に努めると共に環境経営マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

2. 環境経営目標を設定し、社員ひとりひとりが自覚を持って活動に取り組みます。また、環境経営目標は経営における課題とチャンスの変化を捉え定期的に見直しを行います。

3. 当社の事業活動に関わる法規制並びに当社が同意するその他の要求事項を順守すると共に、自らの責任において社会の期待を考慮した行動に努めます。

4. 当社の事業活動において省資源・省エネルギーを推進し、自然エネルギーの有効活用を行い ます。また、産業廃棄物の中間処理業務においては選別作業の徹底を図り、リサイクル率の向上に努めます。

5. 全社員が環境経営方針を理解し行動ができるように周知徹底を図り、環境管理活動に努めます。

この環境経営方針は、社外一般の求めに応じて公開します。

2021年 4月 1日
株式会社 亀田清掃
代表取締役 池田 善徳

公開用

3. 事業の概要

許可内容

許可内容	許可者	許可年月日	許可の有効年月日	許可番号	事業の範囲
産業廃棄物収集運搬業（優良）	北海道	平成30年3月12日	令和7年3月11日	00100007685	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん、産業廃棄物を処分するために処理したもの。以上、石綿含有産業廃棄物であるもの、水銀使用製品産業廃棄物であるものを含み、ばいじん、燃え殻、汚泥、廃酸、廃アルカリ、鉱さいについては、水銀含有ばいじん等であるものを含む。積替保管なし。
特別管理産業廃棄物収集運搬業（優良）	北海道	令和4年9月10日	令和11年9月9日	00150007685	廃油（揮発油類、灯油類、軽油類）、廃酸（pH2.0以下のもの）、廃アルカリ（pH12.5以上のもの）、特定有害産業廃棄物（廃石綿他）
産業廃棄物処分業	函館市	平成31年2月10日	令和6年2月9日	05223007685	脱水（汚泥（無機性のものに限る。）） 固化（汚泥（無機性のものに限る。）） 破砕（廃プラスチック類、紙くず、木くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃石膏ボードに限る。）） 選別（廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類） 圧縮（廃プラスチック類）
一般廃棄物処理業	函館市	令和4年4月1日	令和6年3月31日	1	
一般廃棄物処理業	北斗市	令和4年3月16日	令和6年3月31日	4-4	
一般廃棄物処理業	七飯町	令和4年3月28日	令和6年3月31日	12	
浄化槽清掃業	函館市	平成20年11月5日	無	2	
浄化槽清掃業	北斗市	令和5年3月30日	令和6年3月31日	5-4	
浄化槽清掃業	七飯町	令和5年3月27日	令和6年3月31日	3	
浄化槽保守点検業	北海道	令和3年10月26日	令和6年12月8日	60-39	
浄化槽保守点検業	函館市	令和3年10月6日	令和6年10月11日	2	
建設業	北海道	令和2年1月17日	令和7年4月13日	渡02669	
函館市企業局指定排水設備工事業者指定書	函館市企業局	平成31年4月1日	令和6年3月31日	平成31年度217	

公開用

処理能力

1）収集運搬車両

事業所	種　類		台数
赤川本社	ロードパッカー車	４ t	2台
	ロードパッカー車	５．５ t	6台
	プレスパッカー車	５ t	3台
	プレスパッカー車	６ t	5台
	ダンプ車（クレーン付）	６ t	2台
	ダンプ車（クレーン付）	７ t	2台
	ダンプ車	４ t	2台
	キャブオーバー	２．５ t	1台
	キャブオーバー（クレーン付）	４ t	1台
	ダンプ車（脱着装置付コンテナ専用車）	４ t	1台
	ダンプ車（脱着装置付コンテナ専用車クレーン付）	７ t	1台
	バキューム車	５．５ t	1台
	バキューム車	８ t	2台
	汚泥強力吸引車	５ t	1台
	汚泥強力吸引車	１１ t	3台
	バン（乗用）		2台
函館汚泥脱水処理センター	ダンプ車	１０ t	1台
	バックホー	０．７㎥	1台
	ホイルローダー	１．９㎥	1台
亀田清掃リサイクルセンター	ダンプ車	１１ t	2台
	ダンプ車（脱着装置付コンテナ専用車）	１０ t	1台
	ミニホイルローダー	０．６㎥	1台
	ミニバックホー	０．２㎥	2台
	フォークリフト		1台

公開用

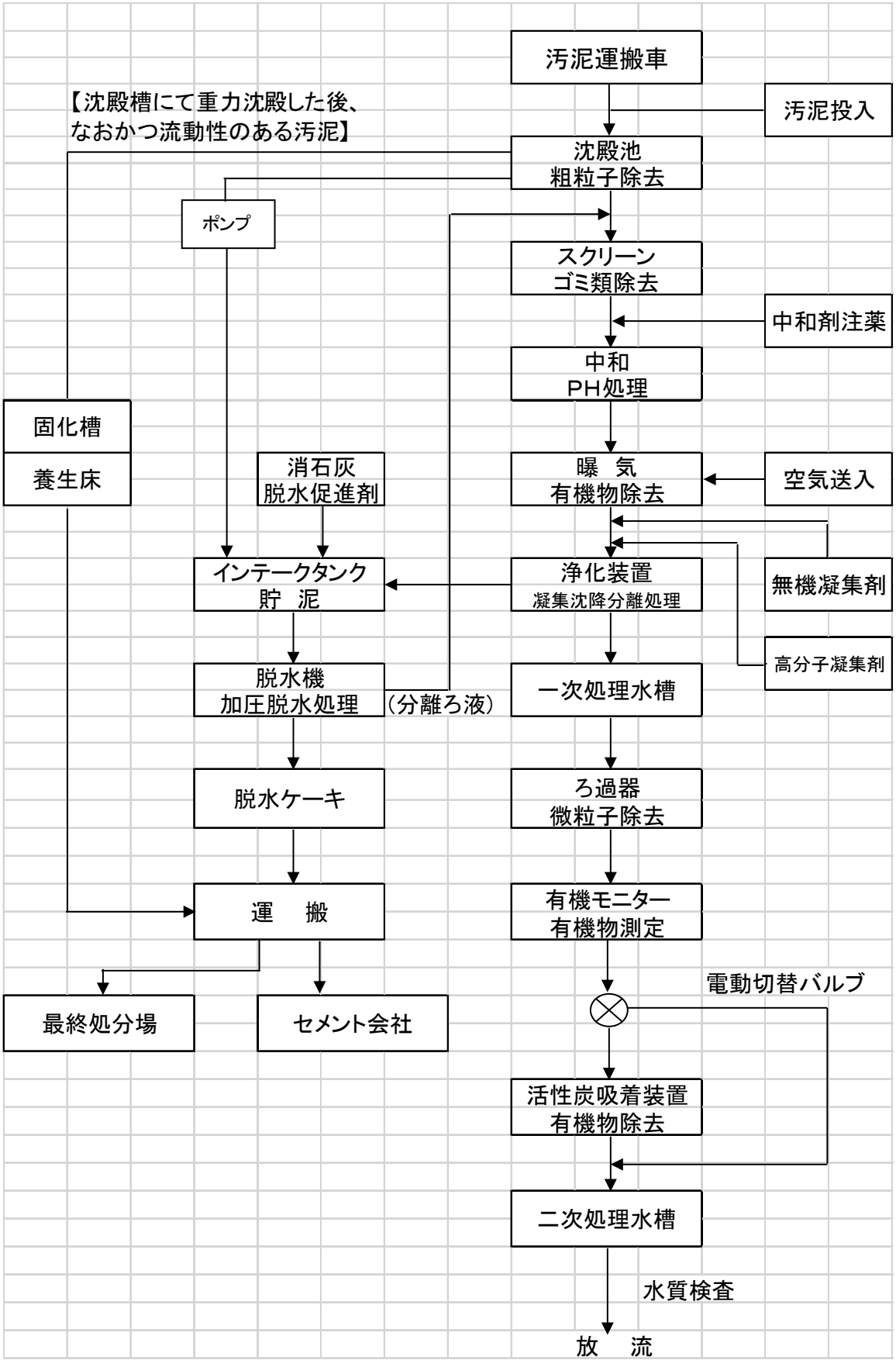
2）中間処理施設

	施設の種類	処分方法	設置場所	処理能力
施設1	汚泥（無機性のものに限る）の脱水施設	脱水	函館市東山町 121 番 5･40 の内	46 ㎥／日(8 時間) 5.75 ㎥／時間
施設2	汚泥（無機性のものに限る）の固化施設	固化	函館市東山町 121 番 5･40 の内	41.28 ㎥／日
施設3	廃プラスチック類、紙くず、木くずの破砕施設（廃プラスチック類、木くず）	破砕	函館市東山町 121 番 20 の内	8.2t／日(8 時間) 1.025t／時間
	廃プラスチック類、紙くず、木くずの破砕施設（紙くず）	破砕	函館市東山町 121 番 20 の内	6.1t／日(8 時間) 0.762t／時間
施設4	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃石膏ボードに限る）の破砕施設	破砕	函館市東山町 121 番 20 の内	4.8t／日(8 時間) 0.6t／時間
施設5	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類の選別施設	選別	函館市東山町 121 番 20 の内	161 ㎥／日(7 時間) 23 ㎥／時間
施設6	廃プラスチック類の圧縮施設	圧縮	函館市東山町 121 番 20 の内	4.0t／日(8 時間) 0.5t／時間

	品名	保管場所面積	最大貯蔵数量
混合廃棄物保管場所	木くず 紙くず 廃プラスチック類 繊維くず 金属くず がれき類等	748.25 ㎡	935.32 ㎥
工場内 （処理後の保管含む）	木くず（破砕） 廃プラスチック類（圧縮） 石膏ボード（破砕）	574 ㎡	161.58 ㎥ 9 ㎥ 10 ㎥
木くず保管場所	木くず	679.74 ㎡	886.88 ㎥
分別・処理後の保管場所	廃プラスチック類 紙くず 金属くず等	233.17 ㎡ 70 ㎡ 139.99 ㎡	45.21 ㎥ 87.5 ㎥ 105 ㎥

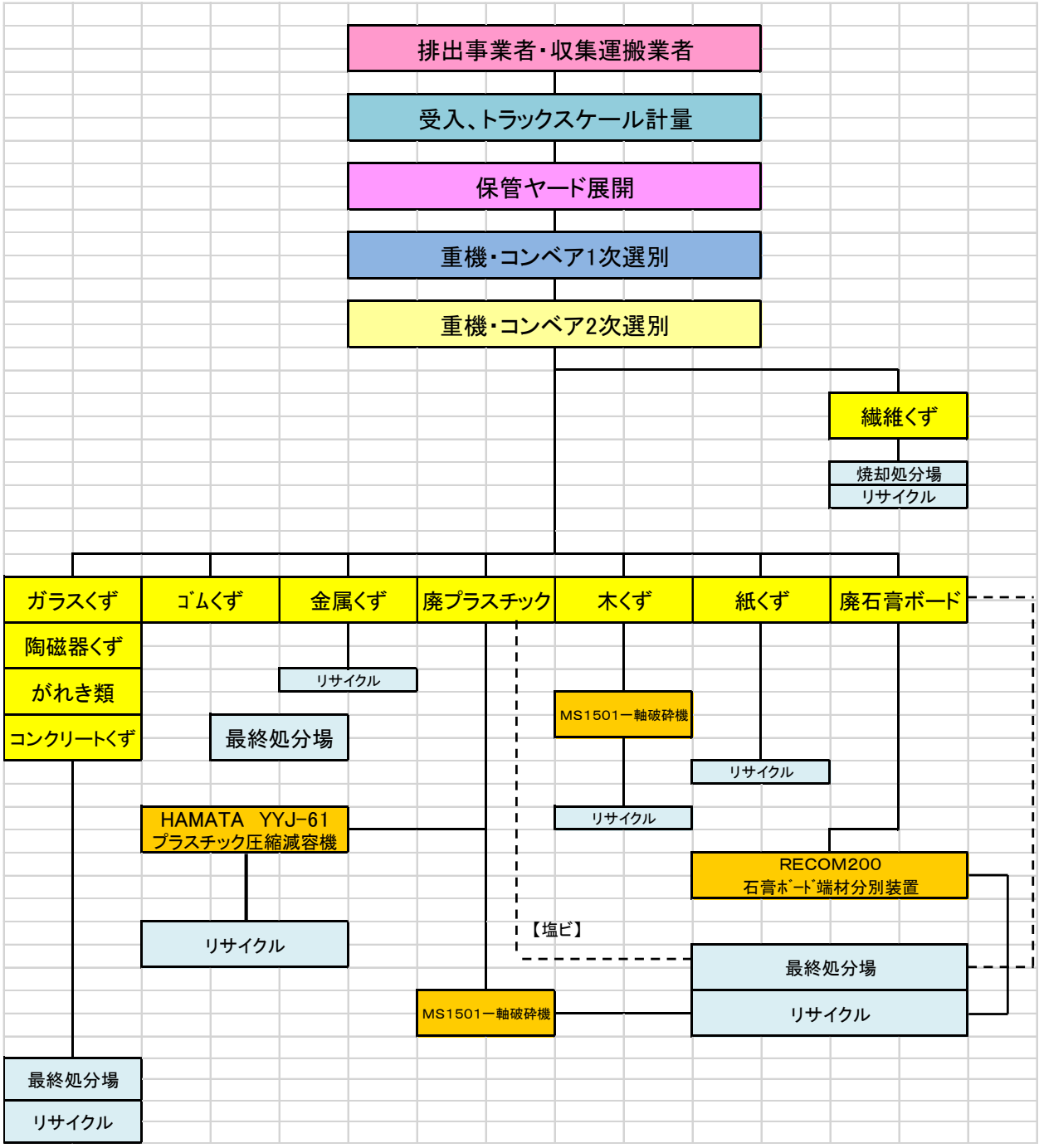
公開用

処理工程図
1） 函館汚泥脱水処理センター



公開用

2） 亀田清掃リサイクルセンター



公開用

処理実績
1）環境への負荷の状況

環境への負荷		単位	2019.4月～20.3月	2020.4月～21.3月	2021.4月～22.3月	2022.4月～23.3月
二酸化炭素排出量		kg-CO_2	752037	762130	722435	724573
受託、または受領した廃棄物、再生資源等の処理量等	産業廃棄物収集運搬量	t	11720	11902	11618	13961
	産業廃棄物中間処理量	t	10495	11360	8998	11980
	うち再資源化等量	t	0	0	0	0
	産業廃棄物最終処分量	t				
	産業廃棄物中間処理後の処分量	t	8393	9133	7244	9761
	うち最終処分量等	t	3585	3387	3378	2878
	うち中間処理量等	t	4808	5746	3866	6882
	一般廃棄物収集運搬量 事業系	t		8846	8714	9037
	家庭系	t		89	76	103
	し尿・汚泥	ℓ		3156072	2794230	2769800
産業廃棄物総排出量		t		9140	6970	9764
	中間処理量	t		6.10	7.30	3.78
	うち再生資源化量	t		5746	3866	6882
	最終処分（埋立）量	t		3387	3097	2878
一般廃棄物総排出量		t		1.18	1.01	1.01
	中間処理（焼却）量	t				0.59
	うち再生資源化量	t				0.40
	最終処分（埋立）量	t				0.02
総排水量	公共用水域	㎥	1315	1325	1378	1378
	下水道	㎥	1400	1510	1416	1416
水使用量	上水	㎥	2716	2835	2794	2794
化学物質使用量	セメント固化剤（ジオセット）	t	131	176	60	381
	粉末ポリ塩化アルミニウム	t	0.76	0.56	0.56	0.72
	消石灰	t	0	0	0	0
エネルギー使用量	購入電力	kwh	105979	99410	104031	107906
	購入電力　CO2 排出量	kg-CO_2	72383	67897	61690	57513
	化石燃料　CO2 排出量	kg-CO_2	679654	688233	660745	667059
	新エネルギー（太陽光発電）	kwh	4076	3220	3436	2602
物質使用量	資源使用量	t	132.21	176.92	60.91	382.13

※二酸化炭素排出係数(単位:kg-CO_2/kwh)　2019年度 0.593　2021年度 0.533

公開用

2）受託した産業廃棄物の処理量

廃棄物等種類			処分方法等	処理量（t） 2019年4月 ～20年3月	処理量（t） 2020年4月 ～21年3月	処理量（t） 2021年4月 ～22年3月	処理量（t） 2022年4月 ～23年3月
収集運搬		廃石綿等（特管）		0.28	3.3	4.65	2.92
		廃油（特管）		2.18	3.81	7.29	5.18
		廃酸（特管）					3.45
		強ｱﾙｶﾘ（特管）			0.01		
		汚泥（特管）				0.08	
		混合廃棄物（石綿含有）		7.4	15.27	15.62	
		プラ（石綿含有）					12.84
		ガラス・陶磁器くず（石綿含有）		7.6			17.63
		がれき類（石綿含有）			1.62	0.29	1.37
		金属くず（石綿含有）			0.05	0.82	
		ガラス・陶磁器くず（水銀使用製品）		1.84	1.28	2.54	1.45
		燃え殻		27.44	2.08	0.46	0.08
		汚泥		7423.38	7346.8	7332.45	9969.05
		廃油		8.21	10.18	14.22	17.21
		廃酸		65.88	107.35	90.09	70.74
		廃アルカリ			1.21	1.10	0.41
		廃プラスチック類		565.36	1034.54	1325.37	1045.44
		紙くず		33.23	9.49	5.14	2.66
		木くず		182.16	133.22	182.11	151.69
		繊維くず					
		動植物性残渣		11.58	18.85	6.71	14.03
		金属くず		196.58	112.68	70.91	110.06
		ガラス・陶磁器くず		141.38	118.4	98.01	118.65
		鉱さい			1.33		
		がれき類		634.05	426.63	205.50	160.19
		混合廃棄物		2411.56	2554.06	2254.99	2256.54
収集運搬量合計				11720.11	11902.16	11618.35	13961.59
中間処理		汚泥	脱水・固化	4005.13	5170.85	3190.64	6792.84
		廃プラスチック類	選別・圧縮・破砕	1483.87	1509.92	1366.44	1273.61
		紙くず	選別	297.45	255.86	264.35	301.73
		木くず	選別・破砕	1450.92	1521.73	1679.82	1314.19
		金属くず	選別	592.67	543.08	511.44	445.18
		ガラス・陶磁器くず	選別	866.25	796.12	860.32	1256.91
		がれき類	選別	1000.76	820.01	482.05	6.26
		廃石膏ボード	選別・破砕	798.94	743.06	643.11	589.55
	うち 再資源化						
		再資源化等小計					
中間処理合計				10495.99	11360.63	8998.17	
中間処理後の産業廃棄物	最終処分	汚泥	管理型埋立（委託）	33			
		廃プラスチック類	安定型埋立（委託）	1011.6	1255.76	1374.54	1033.98
		廃石膏ボード	管理型埋立（委託）	798.94	603.2	696.70	587.46
		ガラス・陶磁器くず	安定型埋立（委託）	866.25	796.12	860.32	1256.91
		がれき類	安定型埋立（委託）	875.76	732.69	446.09	0
		最終処分小計		3585.55	3387.77	3377.65	2878.35
	再資源化等	汚泥	焼成（委託）	1869.7	3000.46	1267.19	4571.90
		廃プラスチック類	再生（委託）	472.27	253.86	245.60	240.46
		紙くず	再生・焼却(委託)	297.45	255.86	259.92	304.56
		木くず	燃料（委託）	1450.92	1580.05	1534.53	1315.84
		金属くず	再生（委託）	592.67	568.61	524.23	443.82
		ガラス・陶磁器くず	再生（委託）				
		がれき類	再生（委託）	125	87.32	35.06	6.26
		再資源化等小計		4808.01	5746.16	3866.53	6882.84
中間処理後処分量合計				8393.56	9133.93	7244.18	9761.19

公開用

4. 環境経営目標

環境経営目的	部署名（関連部署）	環境経営目標		
		2021 年度	2022 年度	2023 年度
軽油の使用による二酸化炭素排出量の削減（収集運搬車・バックホー・タイヤショベルの運転等）	許可事業部	2019 年度の軽油使用実績 151161ℓの 0.5% 756ℓ削減 150405ℓ	2019 年度の軽油使用実績 151161ℓの 1% 1512ℓ削減 149649ℓ	2019 年度の軽油使用実績 151161ℓの 1.5% 2268ℓ削減 148893ℓ
	下水道事業部	2019 年度の軽油使用実績 29625ℓの 0.5% 148ℓ削減 29477ℓ	2019 年度の軽油使用実績 29625ℓの 1% 296ℓ削減 29329ℓ	2019 年度の軽油使用実績 29625ℓの 1.5% 444ℓ削減 29180ℓ
	汚泥処理センター	2019 年度の軽油使用実績 4254ℓの 0.5%21ℓ削減 4233ℓ	2019 年度の軽油使用実績 4254ℓの 1%42ℓ削減 4212ℓ	2019 年度の軽油使用実績 4254ℓの 1.5%63ℓ削減 4191ℓ
	リサイクルセンター	2019 年度の軽油使用実績 42391ℓの 0.5% 212ℓ削減 42179ℓ	2019 年度の軽油使用実績 42391ℓの 1% 424ℓ削減 41967ℓ	2019 年度の軽油使用実績 42391ℓの 1.5% 636ℓ削減 41755ℓ
灯油の使用による二酸化炭素排出量の削減（暖房機・温水ボイラー・洗車ボイラー等）	許可事業部 下水道事業部 総務・営業部	2019 年度の灯油使用実績 7960ℓの 0.5%40ℓ削減 7920ℓ	2019 年度の灯油使用実績 7930ℓの 1%80ℓ削減 7880ℓ	2019 年度の灯油使用実績 7960ℓの 1.5% 119ℓ削減 7841ℓ
	汚泥処理センター	2019 年度の灯油使用実績 2298ℓの 0.5%11ℓ削減 2287ℓ	2019 年度の灯油使用実績 2298ℓの 1%23ℓ削減 2275ℓ	2019 年度の灯油使用実績 2298ℓの 1.5%34ℓ削減 2264ℓ
	リサイクルセンター	2019 年度の灯油使用実績 891ℓの 0.5%4ℓ削減 887ℓ	2019 年度の灯油使用実績 891ℓの 1%9ℓ削減 882ℓ	2019 年度の灯油使用実績 891ℓの 1.5%13ℓ削減 878ℓ
電気の使用による二酸化炭素排出量の削減（PC・コピー機・エアコン・照明等）	許可事業部 下水道事業部 総務・営業部	2020 年度の使用実績 14219kwh の 1%142kwh削減 14077kwh	2020 年度の使用実績 14219kwh の 2%284kwh削減 13935kwh	2020 年度の使用実績 14219kwh の 3%427kwh削減 13792kwh
水道水使用量の削減	許可事業部 下水道事業部 総務・営業部	2019 年度の使用実績 1212 ㎥を上回らない（25 ㎜）	2019 年度の使用実績 1212 ㎥を上回らない（25 ㎜）	2019 年度の使用実績 1212 ㎥を上回らない（25 ㎜）
	下水道事業部	2019 年度の使用実績 1446 ㎥を上回らない（50 ㎜）	2019 年度の使用実績 1446 ㎥を上回らない（50 ㎜）	2019 年度の使用実績 1446 ㎥を上回らない（50 ㎜）
	リサイクルセンター	2019 年度の使用実績 152 ㎥を上回らない	2019 年度の使用実績 152 ㎥を上回らない	2019 年度の使用実績 152 ㎥を上回らない
受入混合廃棄物のリサイクル率の向上による最終処分廃棄物の削減	リサイクルセンター	リサイクル率平均実績 44.4%の 1% 0.4%向上 44.8%	リサイクル率平均実績 44.4 % の 1.5 % 0.7%向上 45.1%	リサイクル率平均実績 44.4%の 2% 0.9%向上 45.3%
固化剤添加率低減による化学物質使用量の削減	汚泥処理センター	固化剤添加率 0.11t/㎥を上回らない	固化剤添加率 0.11t/㎥を上回らない	固化剤添加率 0.11t/㎥を上回らない
紙使用量の削減	総務・営業部	2020 年度の使用実績 69094 枚の 0.3%208 枚削減 69093 枚	2020 年度の使用実績 69094 枚の 0.5%346 枚削減 68954 枚	2020 年度の使用実績 69094 枚の 0.8%554 枚削減 68747 枚
一般廃棄物の適正処理によるゴミ排出量の削減	許可事業部 下水道事業部	2020 年度の可燃物排出量 246.5 kgの 0.5% 1.2 kg削減 245.3 kg	2020 年度の可燃物排出量 246.5 kgの 1% 2.5 kg削減 244.0 kg	2020 年度の可燃物排出量 246.5 kgの 1.5% 3.7 kg削減 242.8 kg
	総務・営業部	可燃ゴミのうち紙くずの排出量が 50%を下回らない	可燃ゴミのうち紙くずの排出量が 50%を下回らない	可燃ゴミのうち紙くずの排出量が 50%を下回らない
	リサイクルセンター	2020 年度の可燃物排出量 134.1 kgの 0.5% 0.7 kg削減 133.4 kg	2020 年度の可燃物排出量 134.1 kgの 1%1.3kg削減 132.8kg	2020 年度の可燃物排出量 134.1 kgの 1.5% 2.0kg削減 132.1 kg

公開用

5. 環境経営目標／実施計画一覧表、取組の評価

環境経営目的	環境目標	実施項目	評価 ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった
軽油の使用による二酸化炭素排出量の削減	2017～2019年度の平均燃費実績を下回らない	アイドリングストップ	◎
		経済速度での走行	◎
		無駄な荷物は積まない	◎
		無駄な空ぶかしをやめる	◎
		急発進・急加速・急ブレーキをやめる	◎
		暖気運転の短縮	○
		エアコンの使用を控えめにする	○
		車両整備	△
		早めのギヤチェンジ	○
灯油の使用による二酸化炭素排出量の削減	2017～2019年度の灯油平均使用実績を上回らない	ボイラーの温度管理等の徹底	△
		お湯の止め忘れ防止	○
電気の使用による二酸化炭素排出量の削減	2019 年度の使用実績を上回らない	照明、空調の消し忘れ防止	◎
		OA 機器等の電源管理の徹底	◎
		冷房の温度管理(28℃)	◎
水道水使用量の削減	2017～2019 年度の平均使用実績 2%削減 リサイクル:250 ㎥を上回らない	洗濯時の水使用量管理	◎
		洗車、レンタル品清掃時の水使用量管理	◎
受入混合廃棄物のリサイクル率の向上による埋立処分廃棄物の削減	2013～2015 年度のリサイクル率平均実績の 1.5%向上	混合廃棄物の分別作業の徹底	○
		選別作業責任者による選別状況の確認	○
固化剤添加率低減による化学物質使用量の削減	2016～2018 年度の平均固化剤使用実績を上回らない	沈殿槽での沈殿時間の延伸による水切り作業	◎
		固化剤の添加量を抑え養生時間の調査	○
		脱水可能汚泥の機械脱水による脱水の徹底	◎
		固化剤の添加量抑制のための小分け使用	○
紙使用量の削減	基準値設定のため使用実績の把握	事務所内主機器 2 台の月毎の使用量を記録	◎
		裏紙の使用促進	◎
		ペーパーレス推進	○
一般廃棄物の適正処理によるゴミ排出量の削減	2017～2019 年度の平均可燃物排出量を上回らない 総務:可燃ゴミのうち紙くずの排出量が50%を下回らない	分別の徹底	◎
		喫食ゴミの適正排出	◎
		紙くずのリサイクル排出	◎
		廃棄物管理票への記入	◎

公開用

6. 取組の結果及び次年度取組

取組の結果	次年度取組
1. 軽油の使用による二酸化炭素排出量の削減 対象部署全体では達成率 100.4%でした。2 部署にて未達成でしたが、作業量の増加にともない、車両の使用も多くなったためでした。	経営目標は、本年度1%削減から次年度は1.5%削減とします。今年度の未達成の部署は原因がはっきりしていましたが、更なるエコ運転、作業効率を図り、全部署が目標達成できるように取り組みます。
2. 灯油の使用による二酸化炭素排出量の削減 対象部署全体での達成率は 80.2%でした。本社での達成率が低く未達成でした。洗車場のボイラーを 2 台交換し試運転のために設定温度を高くし、1 月～3 月まで設定温度を確認せずそのまま使用したため使用量が増えました。	経営目標は、1%削減から次年度は 1.5%削減として取り組みます。気温にも注意し、温度管理を徹底して取り組んでいきたいと思います。又、増減の多い時には給油業者に報告してもらう様にしました。
3. 電力の使用による二酸化炭素排出量の削減 経営目標の達成率は 95.7%でした。2 階事務所設置により使用量が減増えたことと、ソーラーシステムの故障も原因の一つと考えられます。	経営目標は、3%削減として取り組みます。電力使用機器に注視し更なる使用量の徹底管理し、削減に努めます。
4. 水道水使用量の削減 対象部署全体での達成率は 120.6%です。昨年達成できなかった本社でも達成でき、管理が徹底された結果だと思います。	作業及び洗濯には、無駄な水を使用しないように目標達成に向けて取り組みます。
5. 受入混合廃棄物のリサイクル率向上による埋立処分量の削減 目標の達成率は 97.1%でした。上半期にチップ受入施設が工事中で受入停止が続いたため影響が出たが下半期では目標値をクリアしました。	経営目標は、リサイクル率 45.1%から 45.3%のとして取り組みます。分別を徹底し、再資源化の向上に努め、最終処分量の削減に努めます。
6. 固化剤添加率の低減による化学物質使用量の削減 目標達成率は、97.43%でした。受託した汚泥に、多少多めに添加しなければ固化しない性質の建設汚泥があったため達成出来ませんでした。	固化養生時間を多く調整できる時には、添加率を抑え、固化剤の使用削減を継続して取り組みます。
7. 紙使用量の削減 目標達成率は 97.1%でした。紙ベースでの報告書を必要とする業務が例年より多かったために、目標が達成できませんでした。	提出書類以外は裏紙の使用を促進し削減に努めます。また、削減する手段についても検討をします。
8. 一般廃棄物の適正処理によるゴミ排出量の削減 達成率は本社詰所 105.7、リサイクルセンター109.1%、総務・営業部の可燃ゴミのうち紙くず排出量が 50%を下回らないは 111.8%で全部署で目標達成できました。	分別排出の徹底を図り、目標達成に向けて継続的に取り組みます。

7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

「環境関連法規制及びその他の要求事項登録表兼順守状況確認書」により、先ず各部署長が順守状況を確認・評価を行い、次に事務局が各部署長立会のもと、見直しを行った結果、環境関連法規に違反のないことを確認しました。また、外部からの訴訟もないことを確認しました。

主な適用法令	順守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	適正確認
浄化槽法	適正確認
浄化槽保守点検業者の登録に関する条例	適正確認
消防法（オイル、不凍液等の保管）	適正確認
水質汚濁防止法（灯油タンクからの漏洩）	適正確認

公開用

8. マネジメントレビューの結果

<table>
<tr><td>実 施 日</td><td>２０２３年　５月２４日（水）</td><td>場　所</td><td>１F 詰所</td></tr>
<tr><td>出 席 者</td><td colspan="3">社長、環境管理責任者、事務局、部署長</td></tr>
<tr><td rowspan="4">社長による見直し事項及び指示</td><td>見 直 し 事 項</td><td colspan="2">指 示 事 項 等</td></tr>
<tr><td>① 環境経営方針</td><td colspan="2">新たに経営における課題とチャンスは見当たらないため、
現行での環境経営方針の運用を維持する。</td></tr>
<tr><td>②環境経営目標及び環境経営計画</td><td colspan="2">本年度策定された環境経営目標及び環境経営計画を継続的に実施し、必要があれば運用中でも見直しをする。</td></tr>
<tr><td>③環境に関する実施体制</td><td colspan="2">現状維持とする。</td></tr>
<tr><td>社長による全体的な感想</td><td colspan="3">作業量及び受入量増により、目標値をクリア出来ていない部署があるようですが、燃料費や電気代などが高騰しており、部署や個人でももう少し出来ることがないか、小さい事でもいいので考えてほしい。</td></tr>
<tr><td>事務局及び部署長対応</td><td colspan="3">アイドリングストップや温度管理など部署長や推進員でなくても常に心掛けるように朝礼などで定期的に確認をしてもらう。部署長には、部署員と定期的に削減方法について検討してもらう。</td></tr>
</table>